

村田大使挨拶 御神輿イベント（５月１８日（土））

ご列席の皆さま、おはようございます。

先月１６日に駐フィンランド日本国大使として着任しました村田隆です。日本とフィンランドの外交関係樹立１００周年を記念した御神輿イベントの開催を心よりお慶び申し上げます。

主催者の蓬台会長をはじめとする浜松フィンランド協会関係者の皆様、富田東京館オーナー、ヘイッキ・マエンパーHarjula Production CEO、ロンニ・ロンクガスト日本文化友の会会長、エリナ・アンティラ国立博物館館長、ハンナ・ライネ・カンガサラ市議会議長、ヘルシンキ市警察署、その他関係者全ての方々の御尽力に心より御礼申し上げます。

この御神輿は浜松フィンランド協会の蓬台会長がお知り合いの宮大工さんに依頼され、作製されました。宮大工さんが約３万点にも及ぶ部品を使用して、丹念にお造りになられた御神輿はまさに匠の技の結晶です。この荘厳な御神輿には、御神輿を通じて、宮大工の技や日本の文化・伝統をフィンランドの方々に知っていただきたいという願いが込められ、国立博物館での展示後は当地のカンガサラ市に寄贈される運びとなったと伺っております。この御神輿は、両国関係者の深く、温かい友好関係を物語るものであり、１００周年にふさわしい、フィンランドと日本両国民の友好関係の象徴です。

１００年にわたるフィンランドと日本の友好関係の礎は、この御神輿のように両国の先人達が紡いできた様々な分野における人と人との温かな輪のつながりです。この両国の人の輪の先駆けとなったのが、今から１００年前の１９１９年に初代駐日代理公使として日本に赴任した、当時ヘルシンキ大学教授であったグスタフ・ヨン・ラムステッド氏です。同氏は、フィンランドに帰国後は、１９３８年にヘルシンキ大学で初めて日本語講座を開設された他、１９３５年に創設されたフィンランド日本協会の初代会長として、現在まで続く両国国民の交流とそれを土台とする友好関係の礎を築かれました。御神輿の到着地である国立博物館では、このラムステッド氏の功績を讃える展示会が開催されています。

これから私も皆様とともに御神輿を担がせていただきます。途中で力尽きないように御神輿の神様にお願ひし、これからの１００年にフィンランドと日本の信頼がさらに深まり、両国民の関係がさらに発展することを祈りながら、国立博物館を目指したいと思ひます。ご清聴、ありがとうございました。（了）